

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 1 部門第 2 区分

【発行日】平成20年12月11日 (2008.12.11)

【公開番号】特開2008-259916(P2008-259916A)

【公開日】平成20年10月30日 (2008.10.30)

【年通号数】公開・登録公報2008-043

【出願番号】特願2008-204878(P2008-204878)

【国際特許分類】

A 6 3 F 7/02 (2006.01)

【F I】

A 6 3 F 7/02 3 2 0

A 6 3 F 7/02 3 3 2 Z

【手続補正書】

【提出日】平成20年9月8日 (2008.9.8)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

遊技領域が区画形成された遊技盤と、操作ハンドルの操作に応じて前記遊技領域内に遊技球を発射する球発射手段と、前記遊技領域内に植設されて遊技球の流下方向を変化させる障害部材と、を備えた遊技機であって、

前記遊技領域内に配置されると共に該遊技領域を流下する遊技球の受け入れが不可能な第 1 状態と遊技球の受け入れが可能な第 2 状態との間で移行可能な可変入賞装置と、

該可変入賞装置に入賞した遊技球を検出する第 1 の入賞球検出手段と、

該可変入賞装置とは異なり、前記遊技領域内に配置されて遊技球を 1 個ずつ受け入れ可能な一般入賞口と、

該一般入賞口に入賞した遊技球を検出する第 2 の入賞球検出手段と、

前記第 1 の入賞球検出手段及び前記第 2 の入賞球検出手段による遊技球の検出に応じて賞球を払い出す球払出手段と、

所定の判定条件が成立したことに基づいて遊技者に利益を付与すべきか否かの判定を行う当落判定手段と、を備え、

前記当落判定手段は、

特定の遊技状態に制御し、遊技者に特定の利益を付与することを判定する第 1 の当落判定手段と、

該第 1 の当落判定手段とは異なり、遊技状態を変化させることなく、遊技者に所定の利益を付与可能に制御することを判定する第 2 の当落判定手段と、からなり、

前記可変入賞装置の前記第 1 状態から前記第 2 状態への移行に際して、1 個程度の遊技球が辛うじて入賞できるだけの態様である第 1 の特別動作を 1 回以上行うように制御する所定利益付与制御手段と、

前記第 2 の当落判定手段により前記所定の利益を付与可能に制御することが決定された場合には、前記所定利益付与制御手段により前記可変入賞装置を制御することで前記所定の利益を付与可能にする所定利益付与手段と、

前記可変入賞装置の前記第 1 状態から前記第 2 状態への移行に際して、前記第 1 の特別動作よりも多くの遊技球が入賞しうる態様である第 2 の特別動作を複数回行うことで前記特定の利益を付与可能にする特定利益付与制御手段と、

前記第 1 の当落判定手段により前記特定の利益を付与可能に制御することが決定された場合には、前記特定利益付与制御手段により前記可変入賞装置を制御することで前記特定の利益を付与可能にする特定利益付与手段と、

をさらに備え、

前記特定利益付与手段は、前記可変入賞装置の前記第 1 状態から前記第 2 状態への移行を、前記第 1 の特別動作と同一又は近似した態様で行う特定利益当選動作制御手段を含み

前記特定利益付与制御手段又は前記所定利益付与制御手段による前記可変入賞装置の前記第 1 状態から前記第 2 状態への移行に際しては、前記第 1 の当落判定手段及び前記第 2 の当落判定手段のうちいずれの判定手段により決定されたかを遊技者に不明朗にしつつも

前記特定利益当選動作制御手段による前記可変入賞装置の前記第 1 状態から前記第 2 状態への移行の動作回数に基づき、前記第 1 の当落判定手段及び前記第 2 の当落判定手段のうちいずれの判定手段により決定されたかを想起しうるようにした

ことを特徴とする遊技機。

【手続補正 2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0004

【補正方法】変更

【補正の内容】

【0004】

(解決手段 1)

上記目的を達成するために、本発明の遊技機は、遊技領域が区画形成された遊技盤と、操作ハンドルの操作に応じて前記遊技領域内に遊技球を発射する球発射手段と、前記遊技領域内に植設されて遊技球の流下方向を変化させる障害部材と、を備えた遊技機であって、前記遊技領域内に配置されると共に該遊技領域を流下する遊技球の受け入れが不可能な第 1 状態と遊技球の受け入れが可能な第 2 状態との間で移行可能な可変入賞装置と、該可変入賞装置に入賞した遊技球を検出する第 1 の入賞球検出手段と、該可変入賞装置とは異なり、前記遊技領域内に配置されて遊技球を 1 個ずつ受け入れ可能な一般入賞口と、該一般入賞口に入賞した遊技球を検出する第 2 の入賞球検出手段と、前記第 1 の入賞球検出手段及び前記第 2 の入賞球検出手段による遊技球の検出に応じて賞球を払い出す球払出手段と、所定の判定条件が成立したに基づいて遊技者に利益を付与すべきか否かの判定を行う当落判定手段と、を備え、前記当落判定手段は、特定の遊技状態に制御し、遊技者に特定の利益を付与することを判定する第 1 の当落判定手段と、該第 1 の当落判定手段とは異なり、遊技状態を変化させることなく、遊技者に所定の利益を付与可能に制御することを判定する第 2 の当落判定手段と、からなり、前記可変入賞装置の前記第 1 状態から前記第 2 状態への移行に際して、1 個程度の遊技球が辛うじて入賞できるだけの態様である第 1 の特別動作を 1 回以上行うように制御する所定利益付与制御手段と、前記第 2 の当落判定手段により前記所定の利益を付与可能に制御することが決定された場合には、前記所定利益付与制御手段により前記可変入賞装置を制御することで前記所定の利益を付与可能にする所定利益付与手段と、前記可変入賞装置の前記第 1 状態から前記第 2 状態への移行に際して、前記第 1 の特別動作よりも多くの遊技球が入賞しうる態様である第 2 の特別動作を複数回行うことで前記特定の利益を付与可能にする特定利益付与制御手段と、前記第 1 の当落判定手段により前記特定の利益を付与可能に制御することが決定された場合には、前記特定利益付与制御手段により前記可変入賞装置を制御することで前記特定の利益を付与可能にする特定利益付与手段と、をさらに備え、前記特定利益付与手段は、前記可変入賞装置の前記第 1 状態から前記第 2 状態への移行を、前記第 1 の特別動作と同一又は近似した態様で行う特定利益当選動作制御手段を含み、前記特定利益付与制御手段又は前記所定利益付与制御手段による前記可変入賞装置の前記第 1 状態から前記第 2 状態への移行に際しては、前記第 1 の当落判定手段及び前記第 2 の当落判定手段のうちいずれの判定手段

により決定されたかを遊技者に不明朗にしつつも、前記特定利益当選動作制御手段による前記可変入賞装置の前記第 1 状態から前記第 2 状態への移行の動作回数に基づき、前記第 1 の当落判定手段及び前記第 2 の当落判定手段のうちいずれの判定手段により決定されたかを想起しうるようにしたことを特徴とする。

この場合、可変入賞装置が一旦特別動作を開始しても、その時点では当該特別動作が特定の遊技状態の制御に基づいて実行されたものであるか（通常の遊技状態の制御に基づいて実行されたものであるか）否かが分からない。このため、遊技者に対して、可変入賞装置の特別動作が繰り返し行われることの喜びや、最大回数まで継続することなく途中で可変入賞装置の特別動作が終了してしまうことに対しての緊張感を与えることができ、結果として可変入賞装置の特別動作に対する興趣を低減することがない。なお、可変入賞装置の特別動作が繰り返し行われることの喜びは、特定利益付与制御手段の制御に基づいて所定利益付与制御手段では行われない特別動作が行われた時点で、特別遊技状態に制御する旨が確定したことを遊技者が認識できる喜びである。